

予算編成システム（仮称）
システム化構想書（案）

神奈川県財政課

目次

1	事業の概要	2
	(1) 事業名	2
	(2) 背景	2
	(3) 事業の目的	2
2	現行業務	2
	(1) 現行業務の概要	2
	(2) 現行業務の課題	2
	(3) 現行システムの概要	2
	(4) 現行システムの課題	3
3	新業務	3
	(1) システム化の目的	3
	(2) システム化対象範囲	3
	(3) システムの概要	4
	(4) 現行業務との相違点	4
	(5) 他システムとの連携	4
	(6) 取り扱う情報	5
	(7) 想定利用者数	5
	(8) データ保存年数	5
	(9) データ移行	5
4	システム全体図	6
5	スケジュール	6
6	効果	6

別紙1. 機能概要説明書

別紙2. 機能階層図

別紙3. 業務フロー

1 事業の概要

(1) 事業名

予算編成システム（仮称）

(2) 背景

根幹を Microsoft Office に依存したシステムからの脱却及び稼働から 20 年経過した現行システムが抱える課題の解決をすることで、予算編成業務全般の省力化・効率化を図る。

(3) 事業の目的

予算要求から予算議案及び予算に関する説明書の作成に至る予算編成業務に加えて、総合計画の推進や政策評価を含めた EBPM（エビデンスに基づく政策立案）を効果的・効率的に実施するため。

2 現行業務

(1) 現行業務の概要

- ・ 予算要求を行うための歳入・歳出科目の新規登録・修正
- ・ 予算見積書に表示する事業の概要等の入力
- ・ 予算見積書の出力・公開
- ・ 予算査定額、節減額の入力
- ・ 予算議案及び予算に関する説明書の作成・出力

(2) 現行業務の課題

- ・ 紙での出力や保管を前提とした業務フローとなっており、PDF で出力したものを確認するという作業が発生している。
- ・ 会計管理システムへの連携が一方通行となっており、予算編成システム上で予算残高の管理ができない。
- ・ 執行単位（細事業）と予算単位（細々事業）が一致していない。
- ・ 決算見込において、会計管理システムからのデータを加工し、各所に Excel で照会し、集計・加工するという手間が発生している。
- ・ 総合計画の KGI や KPI と各政策の関連性が見えづらく、予算編成支援システムとは密な連携ができていない。
- ・ インターネット上で行っている予算見積書の公開が、一覧性がなく不便となっている。

(3) 現行システムの概要

予算要求から予算議案及び予算に関する説明書の作成に至る予算編成業務全般の省力化・効率化を図るシステムであり、予算額等の情報を取り扱っている。

- ・ 財政課主任機能：予算査定、予算説明書の入力・確認資料の出力等

- ・ 予算計上課補助機能：歳入歳出科目情報の登録修正、予算要求額・節細節別査定額の設定
- ・ 利用者ユーティリティ：利用者パスワードの変更、ローカル用帳票出力情報の設定等
- ・ 管理者ユーティリティ：予算編成システム・システムデータの管理・変更等
- ・ 議案・説明書作成支援：予算議案及び予算に関する説明書の作成指示
- ・ 簡易集計：要求結果、査定結果のシステム集計・予算編成集計作業用素材データの出力

(4) 現行システムの課題

- ・ 一部がクライアント/サーバシステムのため、集計、エラーチェック及び入力作業などが煩雑となっている。
- ・ Microsoft Office に依存したシステムであるため、アップデートのたびに事前検証及びシステム改修の費用が発生している。
- ・ 補正予算を並行して編成した場合に、検証環境を活用しないと予算編成作業が完了しないシステムとなっている。
- ・ 査定額入力・集計作業は、PC にソフトウェアのインストールが必要となっているため、システム管理者が各端末にインストール作業を行う手間が発生している。
- ・ 議案及び予算に関する説明書をシステム内出力のみで完結できないため、大規模な校正作業が必要となっている。また修正の際にデータベースを直接修正する必要がある。
- ・ 継続費見積書、債務負担行為見積書、繰越明許費、県債充当事業の管理や議案及び予算に関する説明書の作成を Excel で管理しているため、庁内一元管理できず、入力や管理が煩雑になっている。
- ・ 他システム及び業務との連動が不足しているため、決算見込調書、監査資料などが煩雑な作業となっている。（会計管理システム・起債管理システム・公会計システム・決算統計システム）

3 新業務

(1) システム化の目的

予算要求から予算議案及び予算に関する説明書の作成に至る予算編成業務に加えて、総合計画の推進や政策評価を含めた EBPM（エビデンスに基づく政策立案）を効果的・効率的に実施するため。

(2) システム化対象範囲

- ・ 複数年を含む予算要求を行うための歳入・歳出科目の新規登録・修正

- ・ 複数年を含む予算要求から査定を含めた分析
- ・ 予算見積書に表示する事業の概要等の入力及び予算見積書の出力
- ・ 複数年を含む予算査定内容、額、節査定額の入力
- ・ 複数年を含む予算議案及び予算に関する説明書の作成・出力
- ・ 各事業の KPI 進捗管理
- ・ 各基金管理
- ・ 執行見込額、執行済額及び決算額の管理、予算残額の把握
- ・ 県債充当事業の管理及び起債管理を含む県債管理
- ・ 総合計画の各プロジェクトの KPI 進捗管理
- ・ 各プロジェクトに紐づく事業の整理
- ・ 予算の県民への見える化
- ・ 総合計画に基づく政策評価

(3) システムの概要

- ・ Microsoft Office の利用を必要最小限として、予算要求から予算議案及び予算に関する説明書の作成に至る予算編成業務に加えて、総合計画の推進や政策評価を含めた EBPM（エビデンスに基づく政策立案）を効果的・効率的に実施する web システム
- ・ 会計管理システムとの相互連携を行い、予算編成システム上で執行済額や決算額の管理、予算残額の把握ができる。
- ・ 県債充当事業の管理及び起債管理ができ、議案及び予算に関する説明書の原案が作成できる。
- ・ 予算の見える化をインターネット上でできるようにする。

(4) 現行業務との相違点

- ・ 全システムの web 化
- ・ Microsoft Office をシステム根幹に組み込まない構成
- ・ 集計やエラーチェックの随時確認
- ・ 継続費見積書、債務負担行為見積書、繰越明許費のシステム化
- ・ 県債充当事業及び起債のシステム管理
- ・ 議案及び予算に関する説明書をシステム出力での完結
- ・ システム上で、執行済額や決算額の管理、予算残額の把握
- ・ 総合計画の推進に向けた KPI 等のシステム管理
- ・ 事業と総合計画との紐づけの見える化
- ・ 予算の見える化における省力化
- ・ 他システム及び業務との連動強化（会計管理システム、公会計システム、決算統計システム、起債管理システム）

(5) 他システムとの連携

- ・会計管理システム
- ・公会計システム
- ・決算統計システム
- ・起債管理システム

(6) 取り扱う情報

- ・予算に関する情報（重要情報含む可能性あり）
- ・執行・決算に関する情報
- ・総合計画に関する情報

(7) 想定利用者数

- ・500人

(8) データ保存年数

- ・5年

(9) データ移行

- ・令和9年度中に令和8及び9年度当初予算及び補正予算を順次データ移行
- ・令和10年度当初予算は令和10年3月にデータ移行
- ・令和10年4月1日に、令和8～10年度の当初予算及び補正予算がデータ移行できている状態を想定。

4 システム全体図



5 スケジュール

- ・令和7年度 調達準備
- ・令和8～9年度 契約、設計、構築、データ移行
- ・令和10年度 令和11年度当初・令和10年度補正予算編成より運用開始

6 効果

- ・予算編成業務の効率化
- ・総合計画及び政策評価業務の効率化